

友情を深め、 忘れられない 思い出に

高梁市国際交流協議会（永井芳郎会長）は、国際姉妹都市等交流体験事業で、8月3日から12日までアメリカ合衆国オハイオ州トロイ市（平成2年に国際姉妹都市縁組を締結）へ応募のあった市内中学校の中から、生徒18人と引率者4人を派遣しました。

高梁市国際交流協議会（永井芳郎会長）は、国際姉妹都市等交流体験事業で、8月3日から12日までアメリカ合衆国オハイオ州トロイ市（平成2年に国際姉妹都市縁組を締結）へ応募のあった市内中学校の中から、生徒18人と引率者4人を派遣しました。



トロイ市を訪問した生徒の皆さんの思い出を感想文と写真で紹介いたします。

◆トロイ市派遣団の皆さん

団長

高田 茂輝 校長 高梁中

引率

花房 直子 教諭 高梁東中
大場 克美 教諭 高梁北中
米倉 美保 市職員

団員

近藤 史さん	高梁中
宮崎 志保さん	同
犬間 大貴くん	同
村上 元規くん	同
川上 純くん	同
畠中 愛子さん	同
平野 友貴さん	同
松下 光将くん	同
笹野さつきさん	同
佐久間 昂くん	同
斎藤 麻実さん	同
岡本 捺希さん	同
鍋島 知子さん	高梁東中
肥田 都子さん	同
木口 麻衣さん	高梁北中
小林史奈子さん	同
大福 祐樹くん	成羽中
武田麻里奈さん	川上中

トロイ市国際交流体験事業に参加して



高梁中学校
高田 茂輝 校長

トロイには見渡す限り「山」がなく平坦な地で、日本のように太陽が山に沈むことなく9時頃まで明るいことに、まづ驚きました。また、住宅地に木が多く残っており、いろんな小鳥達やリスと共存した空間は、アウトドア派の私にとって快な思い出いっぱいでした。

私のホームステイ先はダンロー夫妻と息子さんの3人家族でした。屋内で2匹の大型犬を飼っておられ、私が拒否反応を示さないか、大変心配されていました。私も大好きなことを伝えると、家に着くなり奥さんに大声で、喜び

の報告と同時に2匹の犬の迎えを受けました。

以来、趣味・家族・生活上のことなど私のつたない英会話が始まりましたが、電子辞書は最後の手段として大変有効でした。でも犬との会話は日本語でも通用しました。それを見ていた奥さんがびっくりして「なんでウイニー（犬名）は日本語がわかるの」と、以前から教師として「意志伝達は言語だけではない」と自負していた私は、そのことが裏打ちされたようで、大きな自信になりました。今回のトロイとの交流の原点であると思います。楽しく交流しようとする気持ち、英語でない部分で伝え合うことが真の交流には欠かせないことがわかりました。

ホームステイ最後の朝食の後、片付けを家族と一緒にしながら、この7日間は「毎日がキャンプのようだったなあ」と西の空を眺めながらひとり言をつぶやきました。

あつという間に過ぎていった10日間。でもその10日間は、この夏一番の思い出となりました。

出発日まで、慌ただしく準備をしていた私。アレもコレもホストファミリーに見せてあげたい、持って行きたいと、いつしかカバンは荷物でいっぱいになっていました。しかし、それと一緒に不安も持つて行ってしまったみたいで、アメリカに近づくとつれてその不安は大きくなってしまいました。

しかし、トロイ市で迎えてくれた人達の笑顔が、そんな不安を消してくれました。とても温かくフレンドリーに迎えてくれて、少し驚いたと同時にとても嬉しかったです。

生活が始まってからも、ホストファミリーは温かく優しく接してくれました。文章になっていない下手な英語を使っても、相手が言っていることが分からなくて何度「Pardon?」と聞き返しても、みんないつも笑顔で聞いたり話したりしてくれました。そして、私のことを常に気遣い心配してくれました。「お腹すいてる?」や「疲れた?」など何度も聞いてくれて、ちよつと前まで赤の他人だった私を本当の家族のように扱ってくれました。今までそんなことが一度もなかった私は、それがとても



嬉しくて思わず涙があふれました。

このホームステイで、「人の温かさ」という大切なものを学ぶことができました。それは国籍なんか関係ない「人間同士」のつながりなんだと思います。

今までやったことのない事だらけだったこの10日間は、私にとって「この夏」だけでなく「人生」の中で一番思い出になったと思います。最高の思い出を与えてくれたミロータ家のみんなやトロイ市の人達、そして高梁市の関係者の方々と派遣団のみんなへ心から「ありがとう」ございました。

高梁中学校3年 宮崎 志保

この夏一番の思い出が出来ました。この体験で自分自身いろんな面が成長したと思います。ホームステイは本当に楽しい事ばかりで「日本に帰りたい」という思いもなく、あつという間に7日間が過ぎていきました。

でも最初は緊張と不安の連続で、何をしゃべったらいいかとか考えても思いつきませんでした。日がたつうちにそんな思いもなくなり、本当に楽しみだけの毎日でした。しかし、楽しい反面「もうすぐ会えなくなる」という思いも強くなり始めました。その時の気持ちは本当に「あと一日だけでもいいから一緒にいたい」という気持ちしかありませんでした。時間がこのままずっと止まっていればよいのにと何度も思いました。

お別れの時、自分は何ていい家族



に出会えたんだろうと思うと本当に幸せでした。ホストマザーのお母さんが「いつでもいいから帰っておいで。ここはあなたの家とあなたの家族よ」と言ってくれた時は、自分が本当の家族の一員に認められた感じで、これ以上もないくらい感動しました。

トロイで過ごした7日間を絶対に忘れません。ホストファミリーの家族と過ごした、たくさん時間は本当に早くして、日本にいるのがハツキリ言つて信じられないほどです。朝食を私のために作ってくれたお父さん、毎日いろんな所で助けてくれたお母さんとDaddy、高梁にホームステイした事をたくさん話してくれたお姉さん。そして、いつも空気を和やかにしてくれた2匹の犬。全員私にとっては大切な存在です。

今回この派遣で、「ホームステイがしたい」という夢が叶えられた事、そして、外国にたくさんさんの大切な家族、友達が出来た事。この事はきつと今後私に大きな力を与えてくれると信じてこれからも頑張っていきたいです。

高梁中学校3年 犬間 大貴

今回トロイ派遣団に応募して心



から良かったと思います。行く前はどんな家族なのだろう。英語がちゃんと伝わるかなど心配していましたが、スタッツ家の皆さんはとても優しく親切で、戸惑っていた自分を温かく迎えてくれました。一日一日をとても楽しく過ごせたのもスタッツ家の皆さんのおかげでした。英語の分からないところはジェスチャーを使ったり、絵を描いたりしてとても楽しくコミュニケーションをとることができました。

今回の活動を通じてコミュニケーションをとるためには、英語をうまく話すことも大切ですが、相手と話をしたい、相手のことを理解したいという積極的な気持ちの方が、より大事だと改めて感じました。しかし、相手をより深く理解しようと思つた時、相手に自分の思いを伝えたい時、英語をもっと理解していれば、より深くお互いを分かることができると思いました。

トロイで過ごした日々は、僕にとつて忘れられない夏となりました。あつという間に終わってしまったけど、心の中には一生残る大切な思い出がありました。将来お金を貯めて、ぜひ会いに行

きたいです。その時は、詳しく聞きたかったことなどをジェスチャーや辞書に頼らず自分の英語で話したいです。

高梁中学校3年 村上 元規

僕がトロイ訪問団に参加したきっかけは、昨年の夏にトロイの男の子が2人僕の家に来たので、今度は僕がトロイに行つてトロイの人たちと交流を深めようと思ったからです。初めは、英語が通じるかどうか心配でしたが、それ以上にトロイで



多くの友達を作つて、トロイの人たちと国際交流を深めていきたいと思つていました。

当日、トロイに行くのに約1日かかりました。移動中の時間も僕は、訪問団の人をよく知つておこうと、いろんな人と話をして友達になりました。そして、やつとトロイにつきました。疲れていたけどトロイの人が歓迎してくれたので嬉しかったです。そこからは、トロイの人たちとの交流が始まりました。

1日目はウエルカムパーティーが